

生活創造空間

にし
NISHI

～アンラシネを目指します～

第22号 2015年2月10日発行



夏を越して再び咲きました！

アンラシネ(根をはやす)を目指して…

生活創造空間にしは、今春7年目を迎えます。この間多くの利用者さん、ご家族、そして地域の方々のご理解、ご協力を得て、横浜共生会「ガッツ・ビーと西」と県央福祉会「エヌ・クラブ」が共同して適切に運営してきました。

目まぐるしく変化をする制度や環境ですが、お互いの役割や課題を明確に、横浜市（特に）西区の地域での必要に応じた柔軟な活動を行ってきました。

障がいがあっても、ない人も暮らせる地域（社会）を具体的に活動で示せる場所でありたいと思っています。また、高齢の方が住み慣れた地域で豊かに充実した暮らしができる相互理解とつながりのある地域社会づくりを実現したいと思います。

国や地方公共団体の財政的制約のもとで、保育、介護等を始め制度化された福祉サービスについても、その量、質ともに国民が安心して暮らせるものになっていません。

地域社会におけるセーフティーネットを構成する社会資源として地域に暮らす人々に安心をもたらし、信頼されるサービスの多様化、複雑化する生活環境、福祉の需要への積極的な対応が強く望まれると思います。

制度の狭間といわれる分野への対応や新たな福祉ニーズへの対応が手をつけられない状況で、誰もが安心して暮らせるセー

フティネットの構築、社会福祉保障制度の充実を図ろうとするやる気を感じられない景気浮揚策を推進しようとしているアベノミクスは規制緩和と競争原理に基づいた新たな貧困問題への不安、超少子高齢社会への対策が抜本的に打ち出せず、社会福祉法人は制度の狭間にあるものを含め、地域の様々な福祉需要にきめ細かく対応し、地域の福祉の充実、発展に寄与することも使命と感じています。

人と人の関係をつなぐことは、正しい知識や情報を得るだけではなく、日常的な体験を一緒にすることで、皆が同じように悩んだり、喜んだりしながら生きているということを実感できます。確かに表現の仕方が下手だったり、障がいの重い方もいらっしゃいますが、皆同じように悩んだり、笑ったりしているのです。障がいを持っていても普通に生活して行くことが当たり前前の時代になってきています。人は障がいを克服するために生きているのではなく、普通に暮らし、生きていることを楽しく、人との関わりをつないでいくことです。健やかに安心して暮らすことです。

地域の方が気軽に立ち寄り相談できる「場所」、地域に愛される「場所」でありたい。

「生活創造空間にし」も、この「場所」で有り続けたいと思います。

（生活創造空間にし 副館長 松本孝治）

「横浜障がい相談システム ねくさす」

相談支援員 森 悠紀範

平成 26 年 3 月に、「より地域に近い相談室」を目指し、「横浜障がい相談システム ねくさす」が開所しました。

開所をして、9 か月が経ち、ねくさすとしての相談件数も日を追うごとに増え、計画相談、委託相談、自立生活アシスタント、後見的支援制度の 4 事業を合わせて、3256 件の相談をお受けしてきました。

ねくさすのスタイルとして、4 つの相談事業を同一の事務所内で行うことで、まずは、個人情報の取り扱いに十分に配慮しながら、相談事業の垣根を越えた検討と連携を徹底し、1 事業で抱えるのではなく、相談者の状況を踏まえ、必要に応じて相談事業同士での素早い対応を行うことを目標にして行っています。

3 月・4 月の開所当初は、「ねくさすって何？」というところから始まり、ここ最近はようやく「相談をして良い場所なんだ！！」とご理解いただいているのではないかと感じています。

その理由としては、今まではガッツ・ビーと西の利用から始まる相談が多かったのですが、ねくさすにお電話いただいたの相談、区内他事業所からの相談が日々増えてきています。実際 3 月では 181 件だった相談件数が、11 月には 335 件と約 2 倍の相談を受けるまでになっています。

もちろん簡単に数値だけで判断するものではなく、いかに相談に来られた方が解決への糸口を見つめられたのか、また、安心できたかが重要なことだと考えています。

今年 1 年で、西区には相談先として「ねくさす」があるということを知っていただくことができたのではないかと思います。しかし、現状に甘んじることなく、今後も、西区における安心できる相談場所をめざし、現在も日々邁進しています。また、私たちは、その期待に添えるように日々勉強をし、一緒に考えながら成長していかなければならないと感じています。

【平成 26 年 3 月～11 月までの相談件数

委託相談	1426 件（内、西区 497 件、他区 929 件）（登録者 150 名）	
自立生活アシスタント	941 件（登録者：20 名）	
後見的支援事業	154 件（契約者：18 名）	
計画相談	735 件（契約者：41 名）	計 3256 件



西区地域自立支援協議会を直撃！！（にしうさ男からの報告）

西区地域自立支援協議会の中で旬な情報をお届けするコーナーです。

その1) 「姉妹自立支援協議会」ってなに？

地域活動ホームガッツ・びーと西の運営法人である横浜共生会では震災後から岩手県社会福祉協議会とのつながりを持ち、定期的に被災地支援を行っています。岩手県社会福祉協議会の紹介により平成25年3月からは岩手県釜石市とつながり始めました。支援の中心は物資の搬送でしたが、「もの」だけでなく「ひと」のつながりをお互いが求めていました。そんな中、西区地域自立支援協議会事務局の職員が平成25年9月に釜石に伺ったところで「姉妹自立支援協議会」の話で盛り上がり、釜石・大槌地域自立支援協議会と横浜市西区地域自立支援協議会が姉妹自立支援協議会として動き出すこととなりました。「連携」を合言葉に無理のない関係性を意識し、継続的なつながりを目指しています。連携に向けての柱としては、

- 自主製品の販路拡大
- 防災対策
- 人材育成・スキルアップ

このあたりを考えています。

まだ発足して間もないので、行えていることはそれほど多くありませんが、これからの「可能性」を多分に秘めております。

その一環で今回、2月27日（金）18：00から生活創造空間にし5階食堂にて姉妹自立支援協議会第1弾企画（研修&報告会）「釜石・大槌の4年、西区の4年～4年で何が変わった?!～」を行います。興味のある方は是非ご参加ください！（参加希望の方は、ガッツ・びーと西：阿部まで）

今回の合同研修&報告会をきっかけにゆっくりと歩みを進めていきます！

その2) Facebook 始まる

「西区地域自立支援協議会の動きを動画・画像を交えてリアルタイムでお伝えしたい…。」

そのような想いから区内作業所を中心としたホームページ委員会を立ち上げ、オリジナルのホームページを作り、そこで西区地域自立支援協議会の紹介をさせていただいております。現在、リアルタイムという部分でなかなか答えられない部分があり、平成26年12月より西区地域自立支援協議会のFacebookをスタートしました（「横浜市西区地域自立支援協議会」で検索していただくと、見つかります！）。自立支援協議会の各部会、委員会のリアルタイムの活動について、写真を交えて紹介していきます。今後は、ホームページでは西区内の事業所紹介や事業所で作っている作品・商品の紹介等を行っていき、Facebookでは今取り組んでいることで動きがあった部分の紹介をさせていただくという2段階方式で行っていきます。SNSの特性を活かし、たくさんの方との交流やつながりから、しなやかな地域づくりを目指します！

是非、皆さんご覧ください！

（にし うさ男）



生活創造空間にし研修2015はこんなふうに考えています！

去年は～「障害者権利条約」を学ぼう～を5回シリーズで行いました。

その4回目に障がいある本人の方々から「自分の思い」をていねいに語っていただきました。それがとても「良かった!」「こんなふうにじっくり聞くことって案外していないかも」「本人にとっても良かったのでは」「公的な場所で話す・伝えることは大事」等。そのほか様々な感想がありました。研修企画者にとっても同様の思いが強く残ったこともあり2015年は「障がいある本人の発言」を特集してみよう。そんなふうに考えてみました。そしてまた この「本人」という言葉を広義に解釈して「障がいある人」だけでなく「地域に生きる人」も入れてもいいのでは。

「障がい」ある人がどんな思いで「今」を生活しているか。暮らしているか。働いているか。いろんな思いを共有しながら新しい「共生」を創る一歩にしたいと。

「この人の思い」を「あの人の思い」を聞いてみたい。そんな「この人あの人」のリクエストがあれば是非お伝え下さい。
(研修担当：渡辺)

腹黒日記～黒々なるままに～

☆甘ずっぱい☆

読者の皆様は『プロポーズ大作戦』なるフジテレビ系ドラマをご存じだろうか。主演は山ピーこと山下智久と長澤まさみで、2007年4月から6月にかけて放送された恋愛ドラマだ。幼馴染の礼(長澤)に告白できないまま、彼女の結婚式に参列した健(山下)が妖精(三上博)の力を借りて過去にタイムスリップし、未来を変えられる様に彼女にアプローチするといったあらすじである。

今やテレビドラマは朝の連続テレビ小説でもない限り、『家政婦のミタ』や『昼顔』の様に相当なインパクトや問題作でないとなかなかヒットしない時代だ。その昔はトレンドドラマ、月9ドラマと、誰もが憧れるような美男美女の恋愛をドラマ化し、大人も中学生もテレビの前に集まる時代があった。この『プロポーズ大作戦』も何を隠そう月9枠である。

私は『プロポーズ大作戦』の再放送をいったい何回見たのだろう(なぜか、ちょいちょい再放送される)。昨年末も午後2時頃の再放送枠で放送され、7歳の息子と録画までして見ていた。何故見るか、とても甘ずっぱいからだ。毎回、過去の失敗を思い返し、健が行動するものの、男の意地やプライド、頑固さなどが邪魔をして、いい所までいくが、未来を変えるほどの決定打には至らない。とても甘ずっぱい。うちの息子は「ケンゾー(礼は劇中で健のことをケンゾーと呼ぶ)、ばかだー。」などと男心もつゆ知らず、嘆息する。「へっ、青二才が。」と思いつつ、だが息子には将来、こういう甘ずっぱい経験ができるかもしれない、そういう可能性がわずかにでもあるということをちょっと羨ましくも感じる・・・。

(腹ぐろーる)

生活創造空間にし URL : <http://www.souzoukuukannishi.org>

【発行・印刷】生活 創造 空間 にし広報委員会 〒220-0055 横浜市西区浜松町 14-40

☎ 045-250-6506 (ガッツ・ビーと西) ☎ 045-250-6470 (エヌ・クラブ)